

ユニークな歩道デザインの日常空間への適応性について

大分工業高等専門学校 学生員 岡崎 由起子
同 正会員 亀野 辰三

1. はじめに

国道10号別大地区(通称:別大国道)の歩道には、全国的にも珍しいユニークでカラフルな歩道デザインが施工されている。

歩道デザインに関する既往研究は田邊ら¹⁾によって、生体のリズムである1/f ゆらぎを歩道デザインに取り入れ、歩道空間の印象変化を明確化したものがあるが、歩道のカラーデザインの評価に関する研究事例は、清水(2004年, 大分高専専攻科特別研究論文)のものしか見られない。この研究によると、別大国道の田の浦区間の歩道デザインは高い評価を得ていた。しかしながら、田の浦区間の歩道デザインは海水浴場の後背地という“非日常空間”であるから高い評価を得たのか、通常の“日常空間”ではどのような結果が得られるのかについては明らかになっていない。

そこで、本研究では別大国道の田の浦区間の歩道デザインが日常空間の歩道デザインとして、適応可能であるかを検討することを目的とした。そのために、別大国道田の浦区間の歩道デザインを大分市内の市街地や住宅地などの日常空間に取り入れた景観シミュレーション画像を作成し、景観評価実験を試みた。

2. 対象地域の概要

本研究の対象地域である国道10号別大地区は、別府市と大分市を結ぶ重要な幹線道路であり、古くから「別大国道」と呼ばれ地域のシンボルロードとなっている。

1993年から、渋滞解消を目的として東別府～西大分区間約7kmの6車線化工事に着手し、2005年には、高崎山～西大分間約5.2kmが完成し、併用を開始した。また、その拡幅工事に合わせ、同区間の歩道が整備された。歩道幅員は6.5m。歩道のデザインコンセプトを「別府役所と大分市役所を結ぶ中心から、10mピッチで同心円を描き、オレンジと緑を基調として彩色する」という別大国道景観整備検討委員会での決定事項に基づき、全国的にも珍しい、ユニークでカラフルな歩道デザインの舗装となっている。

3. 研究方法

(1) シミュレーション画像の作成

まず、日常空間の写真として、大分市民がよく利用するであろうと考えられる場所を選定した。その場所を、市街地から大分市役所前、大分駅前、大分PARCO前、郊外商業地としてジャスコパークプレイス大分店前、トキワわさだタウン前、住宅地としてパークプレイス大分公園通り前の計6カ所とした。そして、日常空間の写真を基にして、Adobe Illustrator10とAdobe Photoshopを用いて田の浦区間の歩道デザインをあてはめたシミュレーション画像を作成した。また、比較するための画像として、田の浦ビーチ前の写真も同様にシミュレーション画像を作成した。また、田の浦区間の歩道デザイン以外にも、アスファルト舗装、ブロック舗装のデザインをあてはめたシミュレーション画像を作成し、計7カ所×3種類の歩道デザインの画像を21枚作成した。その作成例を図-1に示す。

(2) 景観評価実験

作成したシミュレーション画像を用いて2007年10月31日と11月1日に景観評価実験を行った。被験者は本校の都市システム工学科5年生37名と1年生40名、その他5名の合計82名(男性55名、女性27名)である。シミュレーション画像は、液晶プロジェクターによってスクリーンに投影する。投影時間は1つのシミュレーション画像につき15秒程度とし、アンケートの説明や研究の目的を説明する時間も含めて全体で15分程度とした。



図-1 評価実験に用いる画像例
(トキワわさだタウン前)

調査内容は、まず性別と対象区間の歩道の通行の有無を問う項目を設けた。そして、アンケートの目的に沿った設問を大別して3つ用意した。設問1では、田の浦区間に用いられている色(6色)の中でどの色が好まれるか。設問2では、日常空間に田の浦区間のカラー舗装をあてはめたシミュレーション画像と田の浦ビーチ前の画像の比較。設問3では、日常空間の歩道にアスファルト舗装、ブロック舗装、田の浦区間のカラー舗装の3種類をあてはめたシミュレーション画像を同時に見せ、どの歩道デザインが好まれるか分析した。

4. 分析結果

(1) 歩道の色について

歩道デザインの色を、A.若葉色、B.夏虫色、C.萌黄、D.薄桜、E.蜜柑色、F.紅梅色としたところ、最も好まれていたのがBの25.6%、次いでFの24.4%、Cが17.1%という結果になった。総合的に見て、A~Cの緑に近い色の方が好まれる傾向にあることがわかった。

(2) 非日常空間と日常空間の比較について

非日常空間と日常空間を5段階で比較した。その値をそれぞれ-2,-1,0,+1,+2として評点を与え数値化を行い、評価値とした。その評価値の値を図-2に示す。図-2より、市街地と住宅地では田の浦区間の歩道デザインは評価値が0未満となり、評価が低いことがわかった。しかし、郊外商業地では、評価値が0以上であり、田の浦区間の歩道デザインは郊外商業地において、適応可能であると考えられる。

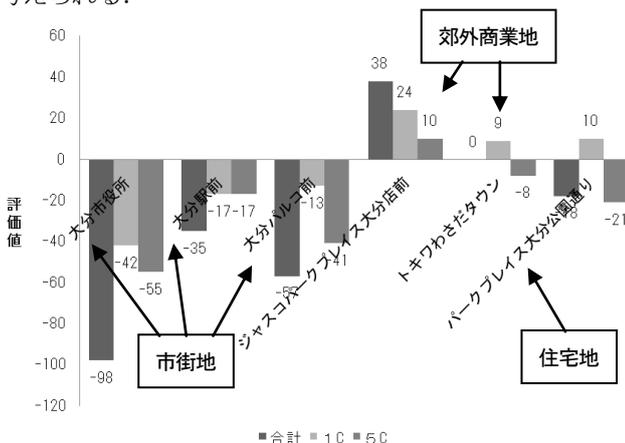


図-2 非日常空間と日常空間の比較結果

(3) 3種類の歩道デザインについて

各場所に対して、3種類の歩道デザインの中でどれが最も好まれるか分析した。その結果を図-3に示す。カラー

舗装の項目を見ると、最も好まれていたのは田の浦ビーチ前であった。次いで、ジャスコパークプレイス大分店前が47.6%であり、カラー舗装の施工可能性が伺える。しかしながら、図-3から市街地と住宅地ではブロック舗装が好まれる傾向があり、また、郊外商業地ではアスファルト舗装が好まれる傾向にあると言える。したがって、非日常空間の田の浦ビーチだからこそ、このカラー舗装が高い評価を得たのではないかと考えられる。

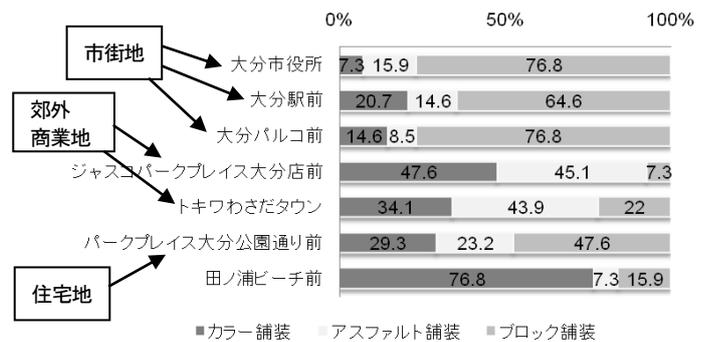


図-3 3種類の歩道デザインの結果

5. おわりに

本研究は、非日常空間である田の浦ビーチに施工されているユニークでカラフルな歩道デザインが日常空間に施工された場合、被験者の評価意識にどのように影響するかを分析したものである。非日常空間と日常空間を比較した場合、市街地と住宅地において、田の浦区間の歩道デザインの評価は低く、郊外商業地においては適応可能であることが示された。しかしながら、どのような歩道デザインが好まれるか分析したところ、市街地や住宅地ではブロック舗装が好まれ、郊外商業地ではアスファルト舗装が好まれる傾向にあることがわかった。よって、非日常空間である田の浦ビーチ前だからこそ、この歩道デザインは高い評価を得られたといえ、日常空間への適応は困難であることが示された。しかしながら、今回の実験結果は、被験者が学生という限定された条件下であったため、得られた成果も限りがある。今後は市民を対象とした歩道デザインの評価を行っていく必要があると考えている。

【参考文献】

1) 田邊淳也・瀬田恵之・武者利光・松本直司・川野俊樹・小栗ひとみ：歩道空間における路面パターンの変化が人の印象に与える影響について、建築学会大会学術講演概要集、E-1分冊、p.803-804、1999年。